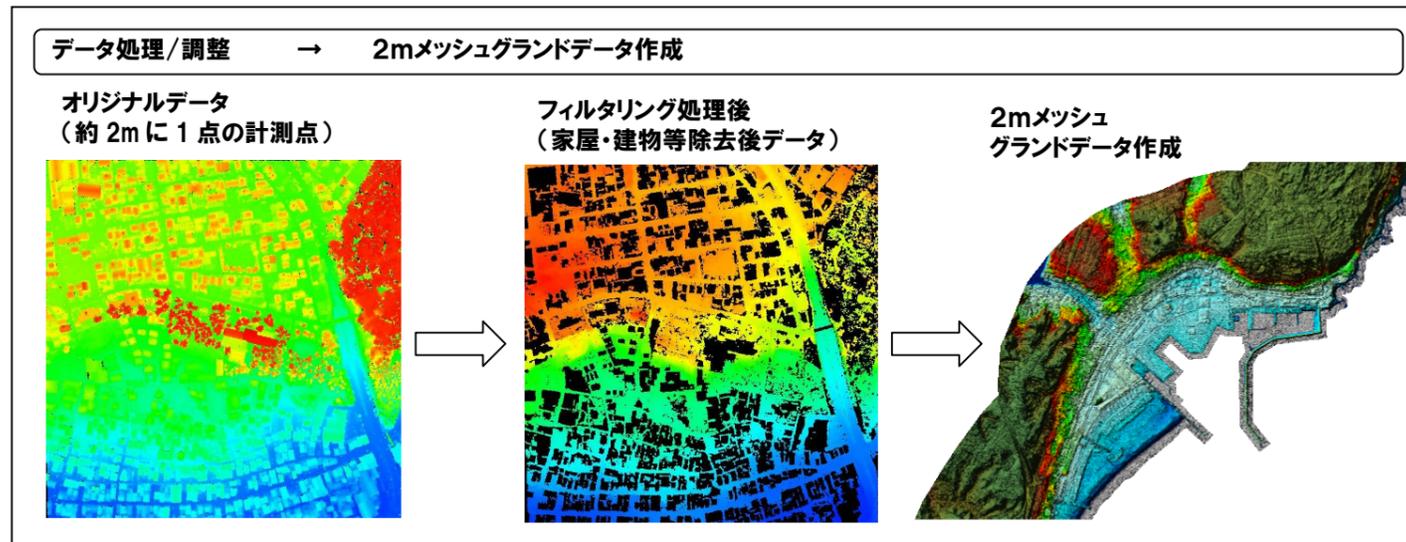


◆地形モデル作成の作成状況について

1. 詳細地形データ(12mメッシュ)の作成状況

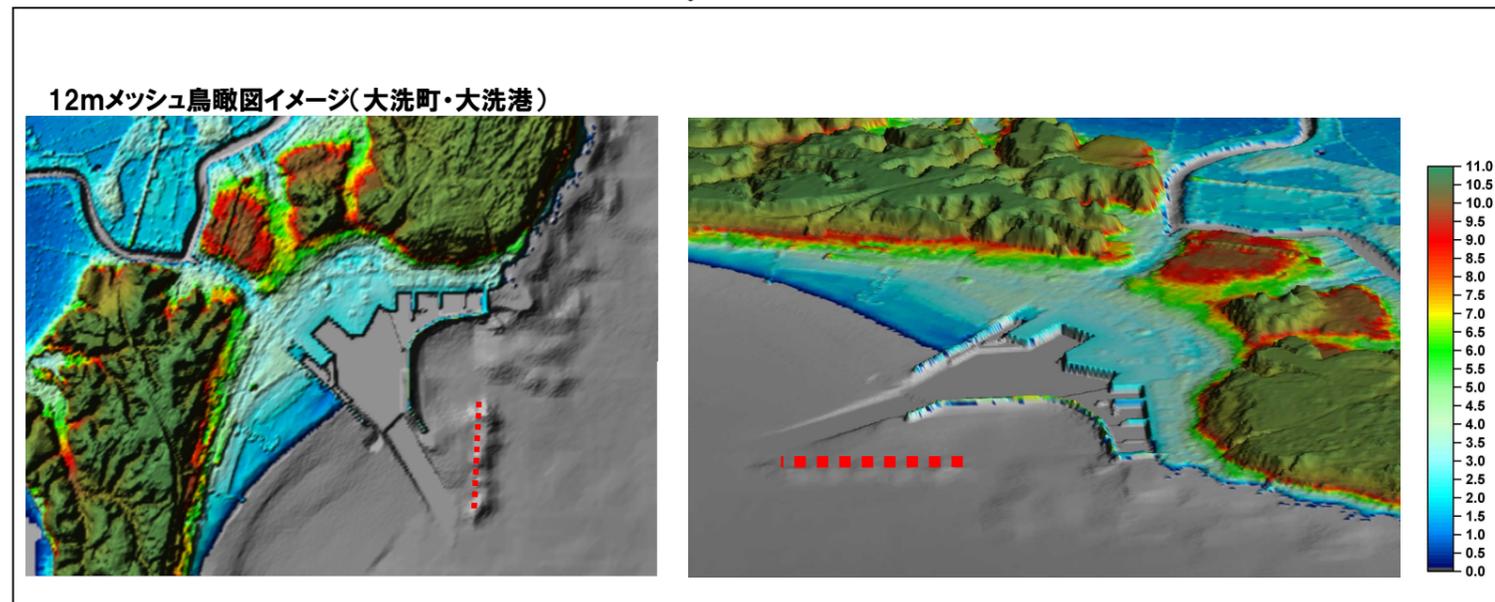
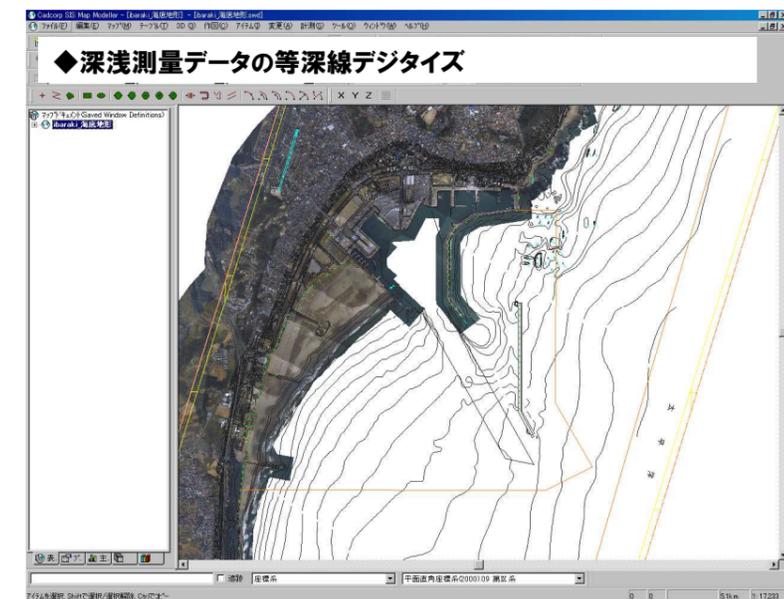
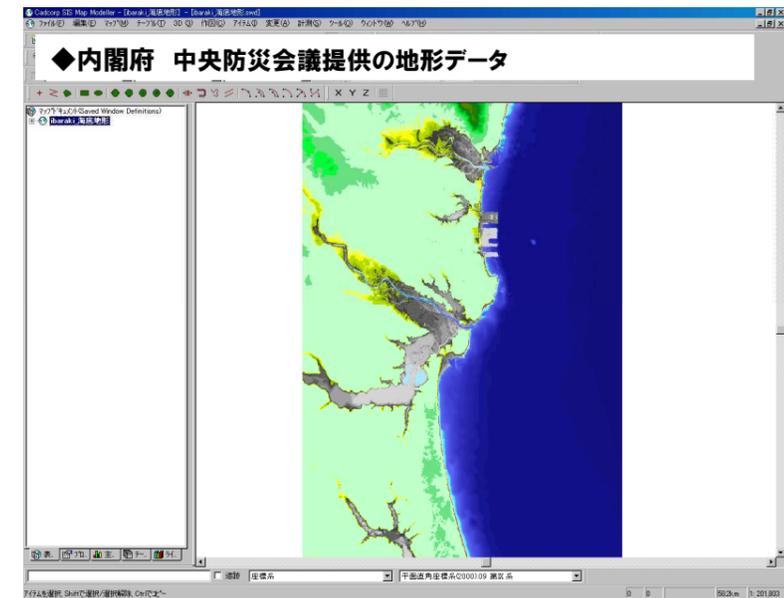
①レーザスキャナーデータを利用した地形データ



②内閣府 中央防災会議提供の地形データ

③深浅測量データ(浅海部の海底地形として)

※ GISソフトを利用し、統一した座標系で管理・作成  
陸域のデータと海域のデータを統合しメッシュ化



※国土地理院は 2m メッシュグランドデータまで作成された地形データを提供。また、国土地理院提供の地形データで不足する一部の範囲は、同様の作成方法により地形データを作成。

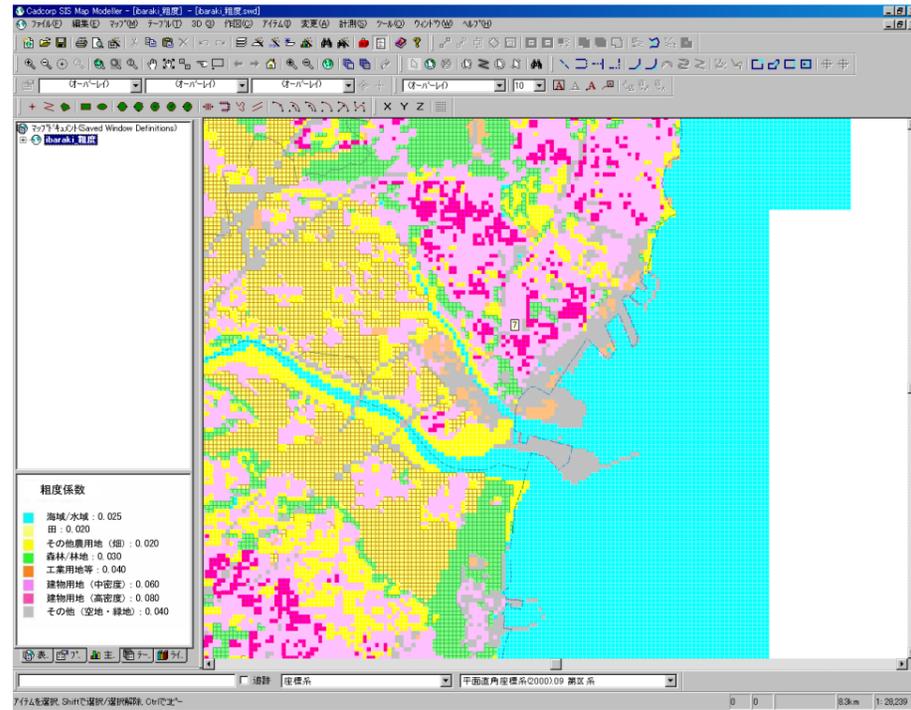
※地形データ作成 作成した 12m メッシュデータで仮計算を行い、地形データのチェックを実施。

※沖合いの海岸構造物 構造物データ(3, (p.3))でその効果を考慮(国土地理院の計測範囲外データ)

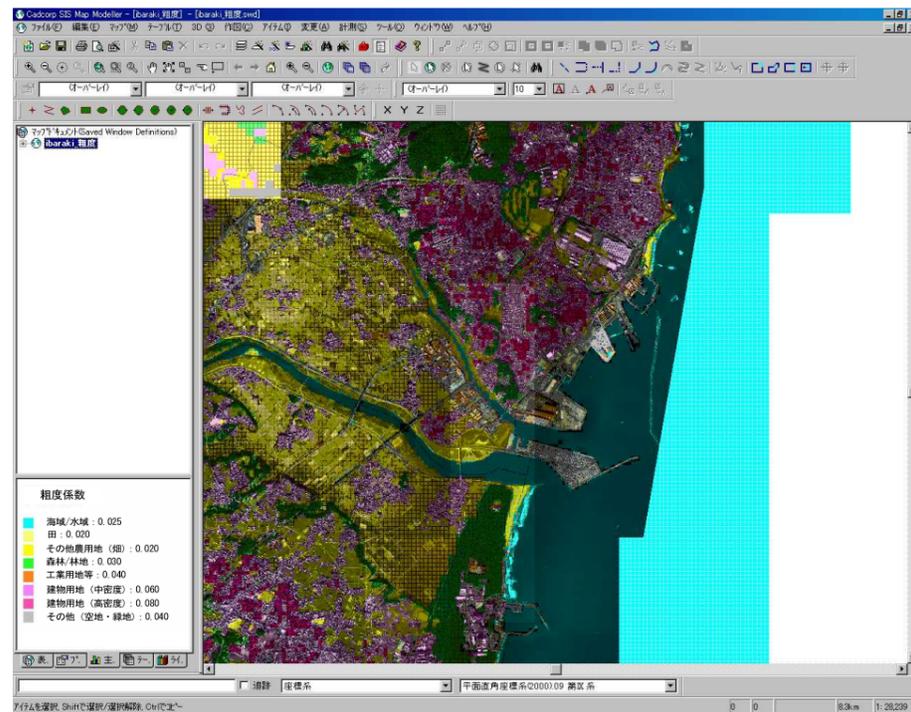
## 2. 土地利用分類による粗度データ

GISソフトを利用し、統一した座標系で管理・作成。

土地利用分類により粗度係数を与える。



オルソ画像により、画像判読し修正。



土地利用の分類と設定粗度

区分	分類	粗度	例及び左記の分類以外のもの、この番号として入力するもの
0	海域/水域	0.025	河川の流路部 池沼等 
1	田	0.020	
2	その他農用地 (畑)	0.020	・自然裸地 ・畑、ビニールハウス ・荒地、草地、伐採地 ・砂浜、岩礁 
5	森林/林地	0.030	樹冠が確認できるもの もしくは樹高が 5 m程度以上のもの 
6	工業地等	0.040	・工場の建物 (メッシュ面積の50%以上の場合) ・プラント類 ・倉庫、体育館等 
7	建物用地 (住宅地：中密度) 密度20%~50%未満	0.060	商店街、業務地も含む 
8	建物用地 (住宅地：高密度) 密度50%以上	0.080	商店街、業務地も含む 
9	その他 (空地・緑地)	0.040	・住宅地等で、道路や空地等があり建物密度が20%未満のところ ・海岸の港湾用地 (荷揚場) ・コンクリートの駐車場 ・公園 ・墓地 ・さら地 ・埋立地 (未利用地) 

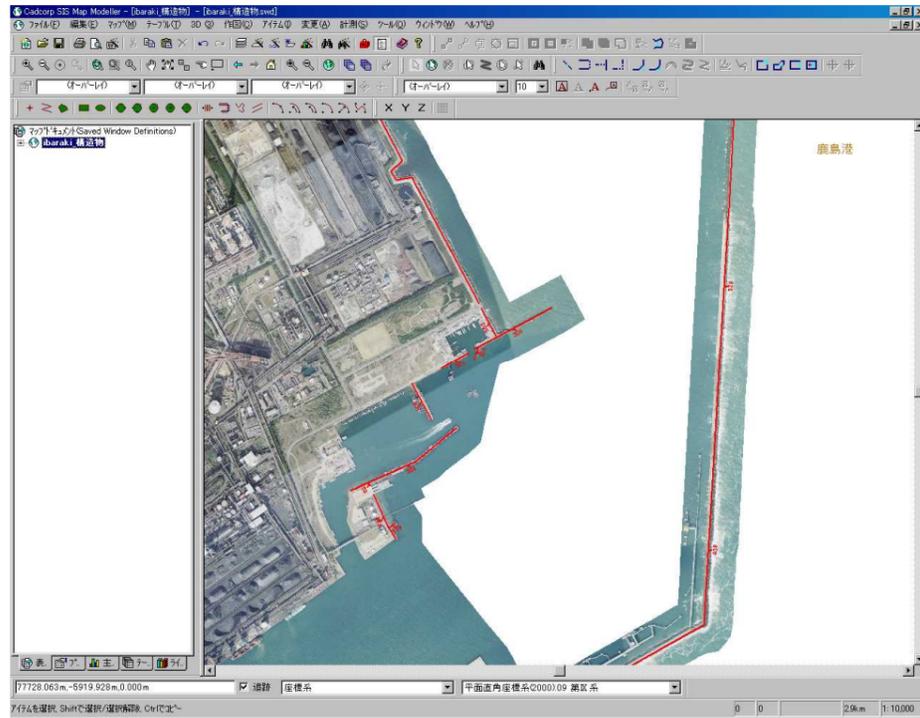
注) 原則として、メッシュの面積の50%を基準にして分類する。50%の場合は、粗度の低い方を選択。

### 3. 構造物データ

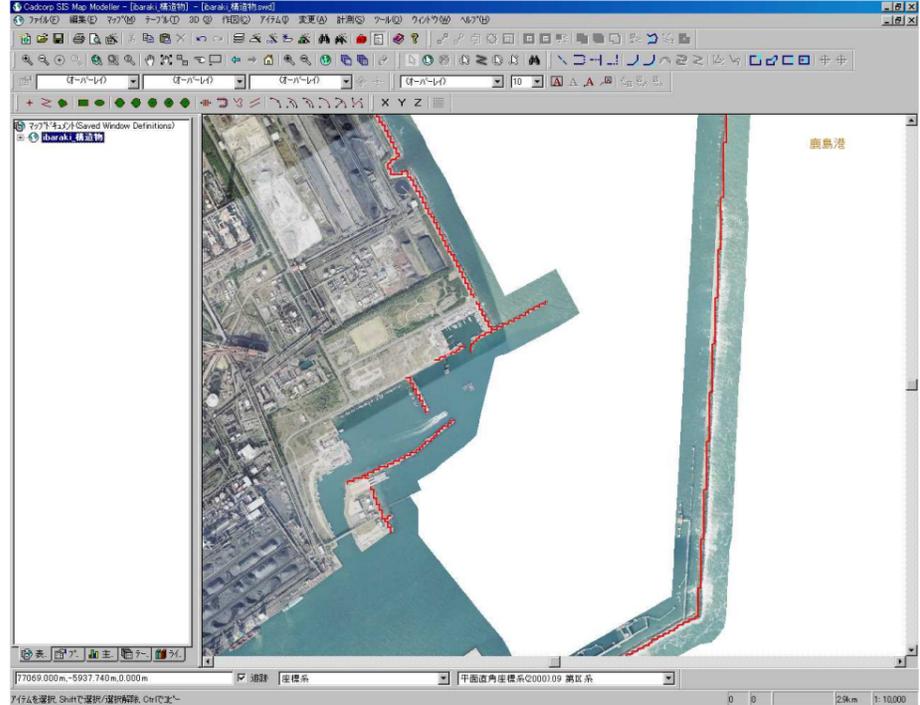
GISソフトを利用し、統一した座標系で管理・作成。

台帳などの資料から、構造物をラインデータとして入力・属性情報として天端高を付加。

また、資料で不明な箇所については、簡易の現地調査を行い、各関係部局への確認を実施予定。



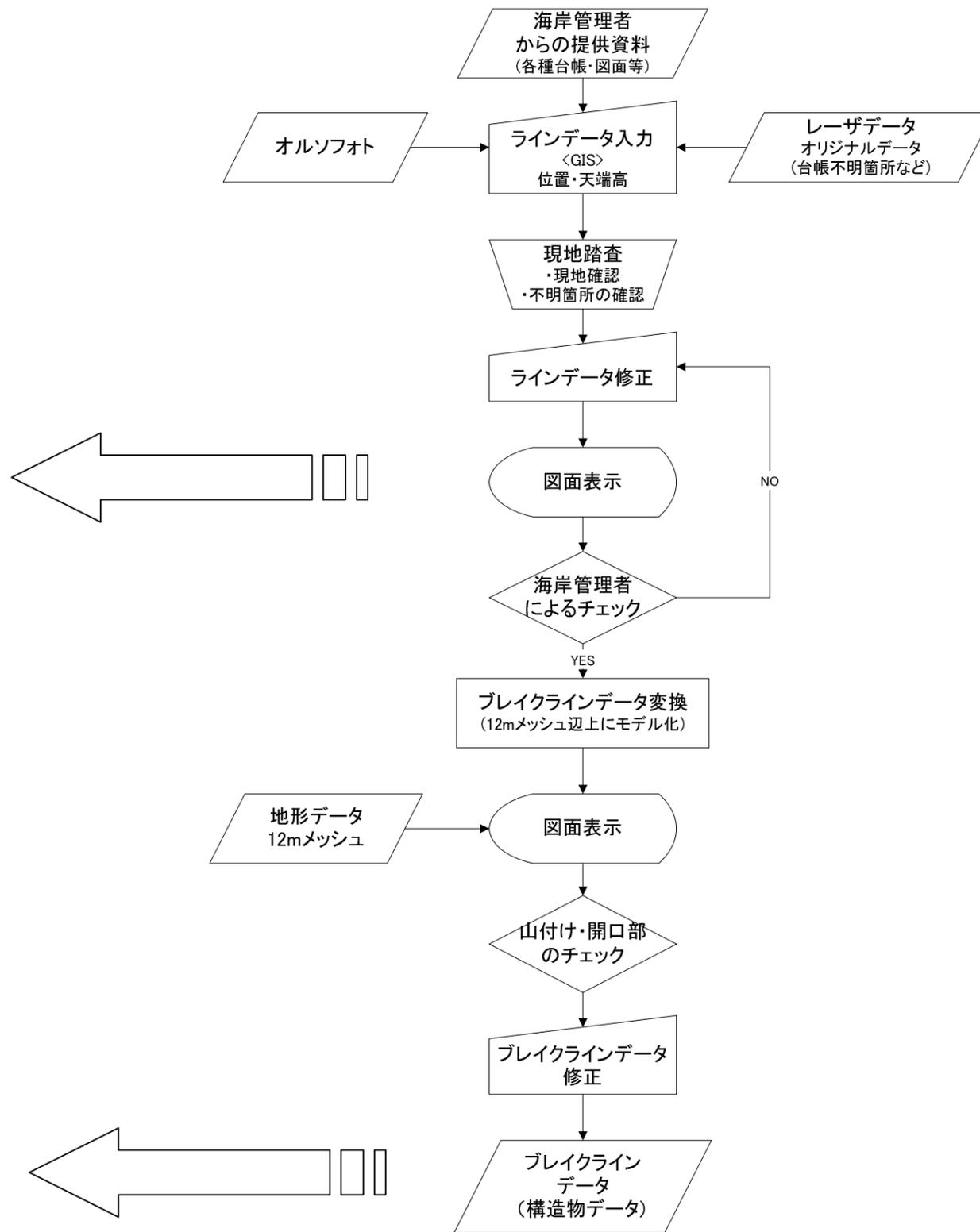
#### メッシュ辺上にモデル化（12mメッシュの辺上にモデル化）。



※構造物データ作成の進捗状況：

資料収集および現地確認を行い、天端高属性を入力。

入力データは、紙面出力し、関係部局への確認を実施。



構造物データの作成フロー